

サントメ・プリンシペ民主共和国

【国名】

- ギニア湾上に浮かぶサントメ島とプリンシペ島の2島を中心とした群島国。サントメ島はポルトガル人が到来したセント・トーマス（サントメ）の日（12月21日）に、プリンシペ島（ポルトガル語で「王子」の意）はその後同島でのサトウキビ栽培を指揮したポルトガル王子に由来。

【国旗】

- 星はサントメ島とプリンシペ島を、黒色はアフリカ大陸への帰属を意味する。緑は豊かな自然を、赤は独立闘争で流された血を、黄色は同国の主要産品であるカカオを表す。



サントメ・プリンシペ国旗

【国土・気候】

- 国土面積は1,001 km²と東京都の約半分。サントメ島はほぼ赤道上にあり、熱帯海洋性気候で、サントメ島、プリンシペ島ともに激しい降雨に見舞われるが、首都及びサントメ島北東部はサバナ気候が広がる。

【植生】

- 独特な地理環境から、固有の動植物が多く生息している。植物では、700 種のうち 100 種が固有種であり、高さ 3 メートルにもなる巨大ベゴニアや、木生シダ、ラン等がサントメ島で見られる。また、生息する 55 種の鳥類のうち 28 種は固有種であり、サントメ・シメヤ、モズ、テリハトキといった希少種が生息している。
- 1822 年、プリンシペ島にブラジルのカカオが初めて入植された。気候、火山灰質の土壤が適していたことから、19 世紀には、カカオ栽培が大きく発展。1913 年には、36, 000 トンのカカオを生産し、「チョコレート島」との別名まで付けられたが、独立以降、カカオの価格下落に伴い、現在の生産量は 4, 000 トン程度。繊細で香り高いサントメ・プリンシペのカカオは「ピュア・オリジナル」、「プルミエ・クリュ（一級品）」と呼ばれている。

【観光】

- サントメ・プリンシペは火山島であるが故の珍しい地形と熱帯の豊かな植生に恵まれ、美しい海に囲まれているため、ダイビング、フィッシング、ボート、エコツーリズム、ホエールウォッチング等が楽しめる。例えば、サントメ島南西部のオボ国立公園では多くの鳥の固有種を見ることができる。
- また、プリンシペ島はユネスコ生物圏保護区に指定され、エコツーリズムの発展に注力。欧米を中心に観光客が年々増加している。

【一般相対性理論の実証】

- アインシュタインの一般相対性理論は、プリンシペ島で実証された。英国人の天体物理学者が1919年5月29日の皆既日食をプリンシペ島で観測し、一般相対性理論が正しいことが実証された。

(了)